

授業科目名	基礎看護技術学実習Ⅰ－基礎的な看護技術実習－			科目コード	N12305
担当教員名	松原みゆき／中井英美子／松脇喜久美／三島真由美／津田右子他			科目区分	必修
開講時期	令和5年8月～9月	実習時間	45時間(1週間)	単位数	1
実習の概要・到達目標					
(概要) 看護の対象を理解し、日常生活援助に必要な知識・技術・態度を学習する。 ＊本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。 (到達目標) 1. 対象が置かれている環境を安全・安楽な環境に整えることができる。 2. 対象の身体的・精神的・社会的側面をとらえ、基本的ニーズの充足のための援助の必要性を判断することができる。 3. コミュニケーションの場面において、受容的・共感的態度で対象の考えを受け止めることができる。 4. 対象に必要な基本的看護技術を実習指導者又は教員とともに実践できる。 5. 看護の役割及び看護の必要性を説明できる。 6. 看護実践の場に触れ、自己の看護に関する考えを深めることができる。					
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)					
・看護学概論 ・看護学基礎演習Ⅰ					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
学生1～2名が一人の看護師についてまわり、シャドーイング(Shadowing)する実習方法。シャドーイングは看護師の実際の活動について目的を持って臨み、注意を集中して聴き、視ることで聴覚からの情報を一時記憶し、その学びを短期記憶から長期記憶へと定着させる学修方法である。更に、視覚からの情報は潜在的な目的意識でありその後の目的を方向づけることから、最初の気づきを看護観として記録する。					
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
<u>カンファレンスの持ち方と学び方</u>： その日に聴き、視たことを明確な言語で記録する。他の学生、看護師、教員の言語との類似性や違いに気づき、自分の言語を体系づける(概念化する)。看護における気づきを記録する。 <u>経験学習のプロセス</u> ・見たこと、聞いたこと、経験したことを毎日記録することで、具体的な事実・現象について学修する。 ・看護師や教師、グループメンバーの会話や発表によって自分の考えや思考をつなげ、広げることで知識の体系化と定着を図る。 ・実習のまとめにより：健康障害者、療養環境、看護活動、看護観を記録して報告する。 ・一般論の課題レポートでは、実習における経験を、人間・健康・環境・関係職種・看護の概念と統合する。					
成績評価方法					
臨地実習要項の評価表に基づき評価する					
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。					
各実習担当の教員が対応する。					

授業科目名	基礎看護技術学実習Ⅱ－看護過程実習－			科目コード	N22303
担当教員名	三島 真由美/中井英美子/松原みゆき/松脇喜久美/津田右子他			科目区分	必修
開講時期	令和6年 2月～3月	実習時間	90時間(2週間)	単位数	2
実習の概要・到達目標					
(概要) 看護基幹科目の人体の理解および生活と健康で学習した科目の知識を活用し、基礎看護学で学習した知識・技術・態度を用いて、受け持ち患者の看護過程の展開を行う。また、看護師に必要とされる臨床判断能力に必要な基礎的能力を身につける。 *本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。					
(到達目標) 1.患者-看護師関係の成立に必要なコミュニケーションができる。 2.対象の身体的・精神的・社会的側面を捉えて、対象を総合的に理解することができる。 3.既習学習を活用して、対象の問題を明確にできる。 4.対象の問題解決のための援助を計画立案できる。 5.対象の日常生活援助が指導のもとに実践できる。 6.実践を振り返り評価及び修正ができる。 7.個人情報の取り扱いが適切にできる。 8.多職種の中の看護の役割が説明できる。 9.看護実践を経験し、自己の看護に関する考えを深めることができる。					
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)					
・人体の構造と機能Ⅰ(基礎Ⅰ) ・生活援助技術学Ⅰ－日常生活援助技術－ ・フィジカルアセスメント(総論) ・看護過程論Ⅰ(基礎編) ・病因・病態学Ⅰ(総論) ・生活援助技術学Ⅱ－生体機能管理技術－ ・フィジカルアセスメント(各論) ・基礎看護技術学実習Ⅰ－基礎的な看護技術実習－					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
1.事前に臨地実習に必要な学習及び実習病院の特徴の理解など、準備のためにオリエンテーションに出席する。 2.受け持ち患者本人(または家族)の同意があった場合に、受け持たせてもらうことができる。 3.臨地実習では、受け持ち患者の個人情報及び病院(病棟)の情報などに触れるため、情報の取り扱いのルールを厳守する。 4.医療の場での学習であることを踏まえ、学習者としての行動を意識する。 5.発熱などの体調不良がある場合には、臨地実習を中止するため健康管理に努めること。 6.欠席・遅刻に関すること、不明なこと、迷うことなどは、報告・連絡・相談を行い自分で判断しないこと。 7.実践する援助については、学生単独では行わない。					
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
・実習事前オリエンテーションを行い、2週間の臨地実習を行う(学内実習日を含む) ・実習スケジュールは概ね①②のとおりであるが、各実習病院によって異なる場合がある。 ①第1週目は、実習病院及び病棟のオリエンテーション受け、実習指導者等と受け持ち患者のアセスメント、問題の明確化、看護計画の立案を行う。 ②第2週目は、看護計画に基き実習指導者(又は看護師及び教員)とともに援助を実践し評価を行う。					
成績評価方法					
臨地実習要項の評価表に基づき評価する					
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					
・基礎看護技術学実習Ⅰの学習経験を踏まえ、苦手だったことを克服する、達成したことはよりレベルを高めるなど自己の課題を達成できるようにする。 ・受け持ち患者に援助を実践することとなるので、患者中心に考えて行動する。					
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。					
各実習担当の教員が対応するので、事前に連絡方法など調整する。					

授業科目名		発達看護学実習-成人期の看護				科目コード	N12317
担当者		大野陽子 /後藤淳/平敦子/廣田旬孝他				履修区分	必修
開講年次	3年	開講期	後期	実習期間	2023年9月～2024年3月	単位数	6
実習の概要・到達目標							
(概要)成人看護学実習Ⅰ・成人看護学実習Ⅱ・成人看護学実習Ⅲで構成される。疾患により、手術や内科的療法を含む集中的な治療や、長期間のリハビリテーションが必要な対象者への看護については、成人看護学実習Ⅰ・成人看護学実習Ⅱで学ぶ。さらに、近年の医療情勢を加味し、3次予防を目的として、地域で生活している医療依存度の高い対象者への外来で行われる医療について、看護が果たす役割と意義を成人看護学実習Ⅲで学ぶ。							
＊本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標)							
1. 健康障害をもつ成人期の対象に対してヒューマンケアの基本を意識した看護ケアができる。							
2. 根拠に基づき看護過程が展開できる。							
3. 特定の健康課題に対応する看護展開ができる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目)							
・人体の構造と機能Ⅱ(応用1)				・発達看護学概論			
・発達看護学-成人期の看護理論-				・発達看護学-成人期の看護技術Ⅰ-			
・発達看護学-成人期の看護技術Ⅱ-				・基礎看護技術学実習Ⅰ-基礎的な看護技術実習-			
・基礎看護技術学実習Ⅱ-生活援助実習-							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
既習の病因・病態学、病態疾患制御学、看護診断、発達看護学-成人期の看護理論、成人期の看護技術、看護と倫理などを復習して臨むこと。事前課題がある。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
＊実習は2週間を3クール行う。実習Ⅰ(慢性期)・Ⅱ(急性期)・実習Ⅲ(療養)に分ける。							
7月 事前課題を提示する。							
8月 オリエンテーション、事前課題を提出する。							
9月 実習初日は学内でオリエンテーションを行う。(受持ち患者が決定する)。							
実習Ⅰ・Ⅱは毎週金曜日に学内実習を行う。							
実習2週目の病院実習最終日には、カンファレンスで実習の成果を発表する。							
学内実習の最終日は実習の成果の報告会を実施する。							
実習終了後は課題レポート・記録物を整理して、指定日時までに担当教員に提出する。							
成績評価方法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する。ただし、資格(出席日数)を満たしていない場合、記録物の未提出、実習オリエンテーションの無断欠席などは評価の対象としない。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
事前学習、特に病態疾患制御学、看護・医学用語の習得をしておくこと。							
社会人としての態度・言葉使いを身につけておくこと。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
ガイダンス時に担当教員から説明する。							

授業科目名	発達看護学実習　ーリプロダクティブ・ヘルスと看護ー				科目コード	N12318	
担　当　者	看護教員				履　修　区　分	必修	
開　講　年　次	3年	開　講　期	後期	実　習　期　間	2023年9月～2024年3月	単　位　数	2
実　習　の　概　要　・　到　達　目　標							
（概　要） 既習の講義・演習で学んだ知識・技術を統合し、マタニティサイクルにある女性や新生児期にある対象者とその家族に必要な看護援助について学修する。またリプロダクティブ・ヘルスの視点から、健康支援のあり方や包括的な看護について学ぶ。 ※本科目は、実務経験のある教員および実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
（到　達　目　標） 1. 対象者とその家族の人権を守り、プライバシーに配慮した行動ができる。 2. 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児および家族の健康状態をアセスメントし、看護過程を展開する実践能力を養う。 3. 母子をとりまく環境の実際や社会資源の活用法について述べるができる。 4. 母子保健医療チームの一員としての役割と協力・連携の重要性を理解できる。							
実習先行要件（下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能）							
（単位修得済の科目） ・人体の構造と機能Ⅱ（臨床医学Ⅰ） ・基礎看護技術学実習Ⅰー基礎的な看護技術実習 ・基礎看護学実習Ⅱ　ー生活援助実習ー ・発達看護学　ーリプロダクティブ・ヘルスと看護理論ー ・発達看護学　ーリプロダクティブ・ヘルスと看護技術ー							
履修における注意事項（受講ルールなど） ・実習施設や対象者から知り得た情報の守秘義務を徹底する。 ・健康に留意し、実習に臨むための自己管理を徹底する。全出席が原則である。 ・実習態度が悪い場合には、実習施設への影響を考慮し、実習を継続できないことがある。							
実習スケジュール　※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
《実習前の準備》 ・学習課題を提出する。 ・看護技術の再確認を行う。 《実習中》 ・各グループに分かれて2週間の実習を行う。 ・妊娠褥婦および新生児を対象として、受け持ち事例の看護過程を展開する。 ・周産期関連施設における支援の実際について学ぶ。 ・母性看護に関する課題についてまとめ、発表し学びを共有する。 ・実習開始・終了時にそれぞれプレテスト・ポストテストを行う。 ＊詳細は実習要綱参照（実習配置のパターンや見学施設は個々に異なる。）							
成　績　評　価　方　法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する							
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） ・事前準備として、関連科目での学びを学習ノートとしてまとめてください。 ・積極的に臨んでください。 ・わからないことや疑問などは、曖昧なままにしないで解決できるように、報告・連絡・相談をしてください。							
教員との連絡方法　※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オリエンテーション時に担当教員から説明します。							

授業科目名	発達看護学実習—子どもとその家族の看護—					科目コード	N12319
担当者	藤原 理恵子 / 加藤 千尋 / 桼 美穂子 他					履修区分	必修
開講年次	3年	開講期	後期	実習期間	2週間	単位数	
実習の概要・到達目標							
（概要） 子どもの成長発達，生活状況，健康状態を理解し，変化する社会の中で子どもと家族を取り巻く環境やその影響を捉え，子どもが健康に発達するために必要な看護援助について学修する。 ※本科目は，実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
（到達目標） 1 子どもの成長発達の特徴，基本的生活習慣の自立度を捉えることができる。 2 子どもの成長発達に影響を与える諸因子を多角的に捉えることができる。 3 看護の視点から，情報収集，情報の整理，アセスメント，看護計画立案をすることができる。 4 成長発達を考慮した説明やかかわりを行い，子どもや家族に対する看護援助を実施，評価することができる。 5 子どもと家族の尊厳と権利を擁護し，倫理的に配慮した援助を実践することができる。 6 子どもに関わる人々や施設と医療スタッフとの連携について理解することができる。 7 変化する社会に応じた小児看護師の専門性と役割を学ぶことができる。 8 実習を通して，自己の看護観や自己の課題を述べることができる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて，単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
（単位修得済の科目） ・人体の構造と機能Ⅱ（臨床医学Ⅰ） ・発達看護学概論 ・発達看護学-子どもとその家族の看護理論- ・発達看護学-子どもとその家族の看護技術- ・看護学総合演習Ⅰ（看護実践基礎力の涵養） ・基礎看護技術学実習Ⅰ-基礎的な看護技術実習- ・基礎看護技術学実習Ⅱ-生活援助実習-							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・主体的、積極的に実習を行いましょう。 ・各自が健康管理には十分に留意し，実習に臨んでください。 特に，小児感染症，インフルエンザ，新型コロナウイルス感染症の予防対策は十分実施してください。 対策が不十分な場合，実習することはできません。 ・実習態度に問題がある場合は，実習施設や対象者への影響を考慮し，途中で実習を停止することがあります。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
【実習前】 ・事前学習課題 ・看護技術の確認 【臨地実習】 ・各グループに分かれて2週間の実習を行う。 保育園実習 ：1週間 医療施設実習：1週間 ・患児を受け持ち，看護過程を展開する。 ・実習最終日は全体カンファレンスにて学びの共有を行う。 ＊詳細は，実習要項参照							
成績評価方法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
必要な知識を事前学習し，実習に臨んでください。 これまでに学んだ知識を統合することができるように，自らが積極的に学んでください。 分からないことは，曖昧なままにせず，必ず調べるなどして解決をしましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は，教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オリエンテーション時に担当教員から説明します。							

授業科目名	発達看護学実習 ―老年期の看護―		科目コード	N12320	
担当者	酒井美奈子/武田 留美子/深堀 美紀子/塚本 仁美/他		履修区分	必修	
開講時期	2023年9月～2024年2月	実習時間	180時間(4週間)	単位数	4
実習の概要・到達目標					
(概要) 老年期は、これまで個々の人生を積み重ね、その人らしさがより際立つ年代にある。これまで培ってきたその人らしさを尊重しつつ、身体的・精神心理的・社会的変化や発達課題を踏まえ、健康レベルに応じた看護実践を学ぶ。 ＊本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。					
(到達目標) 臨地実習要綱3年次≪2023(令和5)年度≫発達看護学実習―老年期の看護―実習要綱に準ずる。					
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)					
(単位修得済の科目) ・人体の構造と機能Ⅱ(応用1) ・発達看護学概論 ・発達看護学 ―老年期の看護理論― ・発達看護学 ―老年期の看護技術― ・基礎看護学技術学実習Ⅰ ―基礎的な看護技術実習― ・基礎看護学技術学実習Ⅱ ―生活援助実習―					
(履修済の科目)					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
臨地実習要綱3年次≪2023(令和5)年度≫―老年期の看護―実習要綱を熟読しておくこと。 実習先行要件の単位修得済の科目、履修済の科目及び、関連する病態生理、解剖について復習しておくこと。					
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
全体の実習計画説明会において、領域別オリエンテーションを実施する。 各グループに分かれて指定の病院で3週間と施設で1週間の合計4週間の実習を行う。 【病院】 実習1週目の初日は、オリエンテーションの実施、自己学習、技術演習を行う。 実習1週目:関連図カンファレンスを行う。金曜日学内で技術演習、自己学習などを行う。 実習2週目:病院実習日にケースカンファレンスを病院で行い、金曜日学内で事例検討会を行う 実習3週目:病院実習最終日に、老年期の看護―病院実習の目標について成果と今後の課題を発表する。 実習終了後、実習記録物などを指定日までに担当教員に提出する。 【施設】 実習1週目の初日は、オリエンテーションの実施、自己学習などを行う。 施設実習最終日に、老年期の看護―施設実習の目標について成果と今後の課題を発表する。 実習学内日の金曜日に学びの報告会を行い、施設実習の学びを共有する 実習終了後、実習記録物などを担当教員に提出する。 ＊詳細は、臨地実習要綱3年次≪2023(令和5)年度≫発達看護学実習―老年期の看護―実習要綱を参照する。					
成績評価方法					
臨地実習要綱の評価表に基づき評価する。ただし、資格(出席日数)を満たしていない場合、記録物の未提出、実習オリエンテーションの無断欠席などは評価の対象としない。					
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					
実習は、これまで学んだ知識・技術(机上の学修)と、臨床においての実践(看護実践)を統合させる場です。 高齢者の特徴をふまえたうえで、必要な援助を復習し、基本をおさえながら対象にあった看護が実践できるように事前準備をしておきましょう。老年期にある対象に関心を寄せ、その人らしさを尊重し、尊厳をまもることの意味を考えられる実習となることを期待します。 実習施設への感染症を持ち込まないために、予防接種、早期受診等体調管理を充分に行ってください。 医療職としての自覚を持った行動やマナーを実践し、患者さん、指導者、教員と良好な関係を保ち、実習を行いましょう。					
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。					
オリエンテーション時に担当教員から説明をします					

授業科目名	精神保健看護学実習					科目コード	N12331
担当者	村木士郎 他					履修区分	必修
開講年次	3年	開講期	後期	実習期間	2023年9月～2024年3月	単位数	2
実習の概要・到達目標							
(概要) 精神保健看護学の講義や学内演習で学修した概念や理論を臨地実習において実際に実践する体験を通して、統合して自己の看護を振り返り考察することができる。 ※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。 (到達目標) - 対象者の尊厳と権利を擁護する態度を養うことができる。 - 対象者との対人関係を振り返り自己理解、他者理解、状況理解を深め、治療的援助関係を構築する態度を養うことができる。 - 対象者へ根拠に基づく看護過程を展開する実践能力を養うことができる。 - 精神的健康レベルに合わせて対象者の全体像を把握し、知識と援助技術を統合して、健康課題に対応する実践能力を養うことができる。 - 保健医療福祉チームの一員としての役割と責任を理解し、連携と協力の重要性がわかる。 - 対象者との対人関係を通して自己の看護姿勢を振り返り、課題を見出し看護専門職者としての専門性の探求と将来の発展に繋げる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目) ・人体の構造と機能Ⅱ(応用Ⅰ) ・基礎看護学技術学実習Ⅰ－基礎的な看護技術実習－ ・基礎看護学技術学実習Ⅱ－生活援助実習－ ・精神保健看護学概論 ・精神保健看護学理論 ・精神保健看護学方法論							
(履修済の科目) ・							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・病院で臨床指導者に指導を受けながら、看護の実際を学びます。学生として主体的な態度で臨むこと。 ・自己の健康管理に注意すること。 ・病院や患者より知り得た情報の守秘義務の徹底。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
施設実習時間 8:30～16:30 第1週目で、情報の収集と統合、第2週目でケアプランの立案と実施・評価を行います。 治療的対人関係の学習のために、プロセスレコードによる看護場面の再構成を場面行い、カンファレンスにより検討し、自己理解・他者理解を深めます。11							
成績評価方法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
精神保健看護学で学修した内容を臨地実習要項に指示した事前レポートにし、しっかり知識として習得したうえで実習に臨んでください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
muraki@hcu.ac.jp (村木士郎)							

授業科目名	在宅看護実習					科目コード	N12335
担当者	山口扶弥/風間栄子/田川紀美子/藤井隆行					履修区分	必修
開講年次	3・4年	開講期	3年後期～4年前期	実習期間	2023年9月～ 2024年6月	単位数	2
実習の概要・到達目標							
(概要) 地域で療養する人とその家族を理解し、生活場面における訪問看護の実際、継続看護、日常生活援助や医療処置管理の支援・看護方法を学ぶ。 ※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。 (到達目標) 1. 訪問看護ステーションの組織、機能、活動の概要を知ることにより、地域における看護の役割が理解できる。 2. 療養者とその家族への支援方法の実際が理解できる。 3. 事例を通し、看護過程やケアマネジメントの実際が理解できる。 4. 他職種・他機関の機能、活動を知ることにより、療養者とその家族を支えるためのサービス連携の重要性が理解できる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目) ・人体の構造と機能Ⅱ(臨床医学Ⅰ) ・地域看護学概論 ・在宅看護論 ・在宅看護技術 ・看護総合演習Ⅰ ・基礎看護学技術学実習Ⅰ-基礎的な看護技術実習- ・基礎看護学実習Ⅱ-生活援助実習-							
(履修済の科目)							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・療養者の生活の場に訪問するため、身だしなみ、言葉づかい、振る舞い等のマナーに留意し自ら考え実習すること。 ・これまでの学習を復習し事前学習を行い、自ら進んで学ぶ姿勢を持ち、積極的に学習を深めること。 ・実習要項を熟読し、臨むこと(学内実習時は、実習要項を持参する)。 ・実習では、講義、演習で整理したファイルを持参し、活用すること。 ・実習にふさわしい髪型・服装準備(在宅看護技術での訪問スタイル)し整えておく。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
・オリエンテーション:別途教員より指示する。 ・学内実習 学内実習初日までに課題を作成し、持参する。 事前課題の発表、コミュニケーション学習、技術チェック、施設より提示された疾患等の事前学習を行う。 ・実習 2週間。原則1施設2名(施設によっては1名ないし3名)で実習を展開する。 訪問看護ステーションは最終日にステーション内で学びの会を行う。 ・実習終了後 実習要項をもとに課題および記録物を完成させ、教員へ提出(〆切日厳守のこと)。 *詳細は、実習要綱を参照のこと。							
成績評価方法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・在宅看護の対象である地域で療養する人は、乳幼児から高齢者までの全年齢層である。これまで各領域の実習で学んだ看護を生活の場で応用することができるように、在宅看護論以外の各領域実習の学びを深めておく。 ・訪問マナー等は、学内演習時にロールプレイ等を通じ学生同士でよく練習をしておく。 ・地域における様々なエリアで実習を2週間行う。補習を設ける事ができないので体調管理をしっかり行い、実習内容の合格基準を満たすこと。・交通事故、怪我等がないように気を付ける。 ・教員の同行は原則ないため、あらかじめ、各自で事前に実習場所や交通手段等確認しておく(事前に1度行ってみる等)。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オリエンテーションならびに学内実習時に、別途教員より指示する。							

授業科目名	課題別統合実習					科目コード	N12339
担当者	看護学科 学科長他全教員					履修区分	必修
開講年次	4年	開講期	通年	実習期間	2023年6月	単位数	2
実習の概要・到達目標							
(概要) 既習の教養科目・看護基幹科目・基礎看護技術・専門看護学・実習において学修した知識・技術・態度を統合し、臨床現場の体制に近い実習を通して医療チームの一員としての役割遂行をめざした看護実践能力を養う。 ※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標) 1. 病院(施設)における看護管理、医療安全、看護の継続性の実際を理解できる。 ① 地域社会における病院の特殊性、病院の中の看護部の位置づけ、組織の中の看護師(個人)の位置づけが説明できる。 ② 施設における医療安全(感染対策・防災等を含む)管理の役割・実際が説明できる。 ③ 継続的な看護の視点で、他職種との調整・連携・協働の実際を説明できる。 2. 複数患者を受け持ち、ケアの優先順位・時間管理・安全を考慮した援助ができる。 3. 看護師に必要な態度を身につけるとともに自己の課題を明らかにする。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目) ・発達看護学実習 4科目すべて 精神保健学後実習							
(履修済の科目) ・在宅看護学実習							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
集大成となる実習であるため、これまでの実習で理解できていない、体験できていない点、深めたい内容などについて、課題を持ち自己学習を進めた上で臨地実習に臨んでください。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
・オリエンテーション(全体オリエンテーション、施設別オリエンテーション)							
【実習内容】							
1. 看護管理者(看護部長・看護師長)や病棟でのリーダー業務などを通し、リーダーシップを含む看護マネジメント能力を養う。リスクマネジメントやセーフティマネジメントを通し、医療安全に関する基礎的知識を養う。 2. 複数患者を受け持ち、優先順位を考慮した援助やタイムマネジメント能力、およびチームの一員としてのメンバーシップを学ぶ。 3. 継続的な看護の視点で他職種との調整・連携・協働について学ぶ。							
成績評価方法							
2020年以降入学：臨地実習要綱の評価表で評価する。 2019年以前入学：臨地実習要綱の評価表 60%、および統合実習学力試験 40%の結果統合して評価する。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
4年間の学生生活における最後の実習となる。主体性をもって積極的に実習に臨んでください。 また、看護を広い視点でみつめ、自己を知り、展望をもてるようにしましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
事前に、各担当教員との連絡方法を確認しておくこと。 緊急時は本学に連絡をする。							

授業科目名	公衆衛生看護学実習―保健活動					科目コード	N12409
担当者	神崎 匠世/金藤 亜希子					履修区分	選択
開講年次	4 年	開講期	前期	実習期間	2023 年 4 月～9 月	単位数	2
実習の概要・到達目標							
（概要） 学校保健：教育実践の場における学校保健活動について学習し、学校保健の基礎的な実践能力を身に付ける 産業保健：職域における産業保健活動を通して、働く人々の健康の保持増進と QOL 向上を目指した健康支援のあり方について学ぶ。また労働安全管理体制における産業看護職の果たすべき役割を理解する。 （到達目標） 【学校保健】 1. 学校教育活動における養護教諭の役割と保健室機能が理解できる 2. 学校保健計画の立案・運営について理解できる 3. 児童・生徒の健康状態を把握して、問題解決が理解できる 4. 校内と学校周辺の把握、衛生や安全の問題解決が理解できる 5. 学校保健と地域保健との連携の必要性を理解できる 【産業保健】 1. 事業場で働く人々の労働の特徴を知り、労働と健康の密接なかかわりを理解する 2. 事業場の安全衛生管理体制について理解する 3. 事業場で行われている産業保健の 5 分野を理解する 4. 事業場で行われている産業保健に関するさまざまな事業について学習し、働く人の健康課題に対する支援の実際から、産業看護職の役割を理解する 5. 労働基準法、労働安全衛生法との関連を理解する							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
（単位修得済の科目） ・基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ ・発達看護学実習（4 科目） ・精神看護学実習 ・公衆衛生看護学概論 ・公衆衛生看護学―アセスメント論・アセスメント展開・保健活動論・保健活動展開・地区活動論・地区活動展開 ※学校保健については、法と人権・スポーツ理論と実技・英語ⅠAB・ⅡAB・情報科学Ⅰ・Ⅱの単位取得が必要です。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・実習要綱を熟読し、テキスト・資料等を用い復習を十分にしておくこと。 ・実習には主体的に臨み、積極的に行動すること。 ・記録物の提出期日は厳守すること。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
【学校保健】 1. 学内オリエンテーション 1) 実習要綱に基づき実習時の諸注意等の説明。 2) 学校保健に関する法制度・組織体制・役割・機能についてレポートの作成。 3) 特別支援教育についてレポートの作成。 2. 施設内実習：実習要綱参照							
【産業保健】 1. 学内オリエンテーション 1) 実習要綱に基づき実習時の諸注意等の説明。 2) 産業保健活動に関する法制度・組織体制・役割・機能についてレポートの作成。 2. 施設内実習：実習要綱参照							
成績評価方法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する（事前学習・実習記録・レポート等を含む）。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
健康管理に留意し、グループメンバーで協力して実習成果の向上を目指しましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
実習開始前に、教員の連絡先をお知らせします。							

授業科目名	公衆衛生看護学実習―地区活動					科目コード	N12410
担 当 者	神崎匠世/金藤亜希子					履 修 区 分	選択
開 講 年 次	4 年	開 講 期	前期	実 習 期 間	2023 年 4 月～9 月	単 位 数	3
実 習 の 概 要 ・ 到 達 目 標							
(概 要)							
既習の講義・演習で学んだ知識と技術を統合し、地域における公衆衛生看護活動について理解を深める。							
(到 達 目 標)							
1. 地域の健康課題の明確化と課題解決のための施策を理解する。							
2. 地域の健康増進を高めるための個人・家族・集団・組織への支援と協働のあり方を理解する。							
3. 地域の健康危機への対処について理解する。							
4. 地域の健康水準を高める社会資源の把握と資源開発の状況を理解する。							
5. 地域における保健福祉活動と保健師の役割・機能について理解する。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目)							
・基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ ・発達看護学実習（４科目） ・精神看護学実習							
・公衆衛生看護学概論							
・公衆衛生看護学―アセスメント論・アセスメント展開・保健活動論・保健活動展開・地区活動論・地区活動展開							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・実習要綱を熟読し、テキスト・資料等を用い復習を十分にしておくこと。							
・実習には主体的に臨み、積極的に行動すること。							
・記録物の提出期日は厳守すること。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
【学内】							
1. オリエンテーション							
2. 事前学習							
① 実習ノートの作成（既習科目の復習）。							
② 実習施設が管轄する地域の地域診断。							
③ 健康教育の準備として、指導案・原稿・媒体を作成し担当教員から指導を受ける。							
④ 実習計画に基づいたすべての保健事業の目的・概要について作成しておく。							
【施設実習】							
実習要綱参照							
成 績 評 価 方 法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する（実習記録・レポート等を含む）。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
健康管理に留意し、グループメンバーで協力して実習成果の向上を目指しましょう。							
実習では住民に対して健康教育を実施します。学内学習での健康教育の準備には十分な時間を確保し取り組んで下さい。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
実習開始前に、教員の連絡先をお知らせします。							